

EV充電インフラ事業

兼松株式会社

兼松の電気自動車(EV)関連の事業は、EVの充電インフラ関連サービスとEVそのものおよび関連部品の販売などがあります。今回は充電インフラ関連サービスを開発する、「Project VOLTA」についてご紹介いたします。

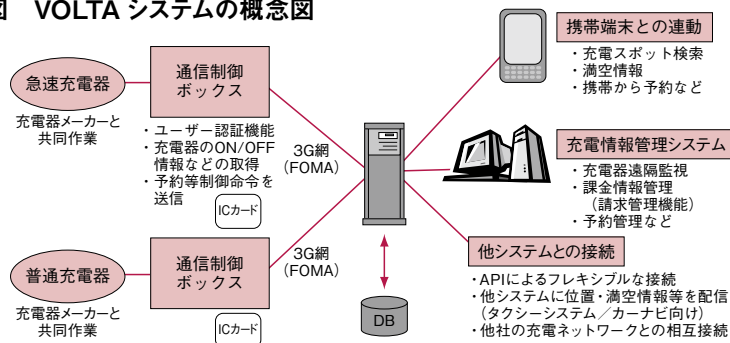
Project VOLTAは、新規

事業の立ち上げをミッションとする事業推進部が中心となり、電子・IT部門、環境・素材部門、関係会社である兼松コミュニケーションズとモーションがメンバーとなって構成されている横断的プロジェクトチーム(2009年6月発足)です。

Project VOLTAは、移動体通信端末の販売やモバイル・ソリューションに強みを持つ兼松コミュニケーションズと、サーバ・ソフトウェア開発に強みを持つモーションの、既存アセットやネットワークを活用し、本事業のコアとなるVOLTAシステム(充電器の満空情報配信・携帯からの充電器予約・ユーザー認証機能・ユーザー課金機能などを備える。図参照)を開発。同時に、経済産業省によりEV・PHVタウンに選定された京都府と覚書を締結し、連携して京都市内に充電器を設置して、通信ネットワークでVOLTAシステムと接続しました。

京都府では「京都府次世代自動車パートナーシップ倶楽部^(注1)」が発足し、産・官・学・民が連携して各種実証実験や施策を推進するために、倶楽部の参加者がテーマごとにワーキンググループを設置する仕組みがあります。そこで当社は倶楽部に参加すると同時に、2010年4月に代表幹事として、EVタクシー・レンタカーによる観光に関するワーキンググループ(観光WG)を14社で立ち上げました(現在21社^(注2))。

図 VOLTA システムの概念図



観光WGでは、EVタクシー・レンタカーによる観光を軸として、VOLTAシステムの稼働実証と、各種ビジネスモデルの開発を進めています。

またProject VOLTAは、京都で構築したパートナー会社とのネットワークを活かし、関西圏や他のEV・PHVタウンを中心に、充電インフラ関連サービスの拡充に努めており、2010年11月25日には、大阪府によるEVタクシー普及啓発事業^(注3)への採択が発表されました。本事業では新たにEVOT共同企業体^(注4)を構成し、充電サービスだけではなく、EVタクシー予約システムなども展開していきます。

EVは、車両や電池、その部品や素材だけではなく、周辺のITサービス分野も含め大きなすそ野の広がり期待できる分野です。今後とも新たなサービス展開に向けてシステムとビジネスモデルの開発に努めてまいります。

(注1) 京都府次世代自動車パートナーシップ倶楽部: <http://www.pref.kyoto.jp/denkizidousya/partnershipclub.html>

(注2) 観光WG参加企業名21社: 近鉄ホテルシステムズ、ウェスティン都ホテル京都、上原成商事、Fレンタリース、オリックス自動車、兼松、兼松コミュニケーションズ、キャビック、高速タクシー、GSユアサ、ジェイティービー、JTB西日本・京都支店、システムオリジン、西村レース、パナソニック電工、日立国際電気、ミニストップ、都タクシー、モーション、ヨドバシカメラ、ヨドバシ建物、リサイクルワン

(注3) 大阪府EVタクシー普及啓発事業: <http://www.pref.osaka.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=5445>

(注4) EVOT共同企業体構成員: 兼松(代表構成員)、兼松コミュニケーションズ、JTB西日本、システムオリジン、パソナ、モーション